

# マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 自治大学校における一年間の研修であり、研修期間中の概ね半分は自治大学校における実務に参画し、もう半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することにより、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

皆様。こんにちは。特研究生の太田です。

私が受け持った税務専門課程(税務・徴収コース)第18期は、9月11日に研修生全員無事に卒業式を迎えることができました。

少し振り返ってみたいと思います。

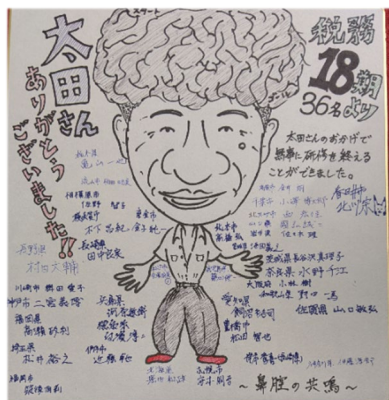
今年度最初の課程である第1部課程第134期の入校式の約1週間後である8月18日、全国から36名の研修生が集まり入校式を迎えました。毎年度、約80名が集まる課程ですが、今年度は新型コロナウイルス感染症のこともあり、約半数での開催となりました。いつもより少ないとはいえ、最初は研修生の方の顔と名前が一致せず、名札を見ながらの対応となりましたが、1週間も経つと顔と名前が一致するようになり、研修生と課程担当者の壁を感じることなく、いろいろなお話ができるようになりました。

研修は座学のみならず、グループ討議などの時間も組まれています。グループ討議の時間は講師がいないため、どのように討議結果をまとめてもらえるか心配なところもありましたが、「さすが徴収職員！」目的とするところは同じということもあり、意見交換も含め、円滑に討議結果をまとめていただきました。

研修全般を通して、研修生の皆様には何のお構いもさせていただくことはありませんでしたので、私は裏方に専念することができました。そのため、研修生の皆様には非常に楽をさせてもらいとても感謝しています。

それにもかかわらず、卒業式の日には研修生皆様の名前が入った私の似顔絵の色紙を贈っていただいて、とても恐縮しています。

今年度は新型コロナウイルス感染症のこともあり、十分な時間を取って研修計画を作成することはできませんでした。私は税務経験が長いこともあり、研修内容や研修課目の順序についても十分考慮する必要があったのではないかと今更ながら思っています。来年度開催される第19期をより良い研修にするため、研修生からのアンケート結果を真摯に受け止め、改善に取り組んでいきたいと思えます。



研修生からいただいた色紙



自治大学校中庭から見た夕焼け